

たまねぎレポート【357号】



平成29年7月26日

阪南青果株式会社

社 内 報

6月の天候は、東日本で日照時間がかなり多く、東日本の太平洋側で降水量はかなり少なかった。北日本では、低気圧の影響で降水量はかなり多かった。西日本は、冷涼な高気圧に覆われやすく、気温は低かった。7月は上旬に台風が九州、四国、近畿を横断した。その直後、北九州に局地的な豪雨があり、甚大な土砂災害をもたらした。下旬には秋田県下が集中豪雨に見舞われ、河川が氾濫、家屋の浸水など過去にない大水害が発生した。

気象庁が発表した8～10月の3か月予報では、この期間の平均気温は平年より高い。降水量は、東・西日本で平年並み亦は少ない。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ない。東日本の日本海側では、平年に比べ晴れの日が少なく、東日本の太平洋側と西日本・沖縄・奄美では、晴れの日が多い。気温は、北・東日本で平年並み亦は高い確率40%。西日本と沖縄・奄美で高い確率50%。降水量は、北

日本と東日本の日本海側で平年並み亦は多い。西日本の太平洋側と沖縄・奄美で平年並み亦は少ない。

9月、北日本と東日本・西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わるが、東日本・西日本では平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美は、平年同様晴れの日が多い。気温は、全国で高い確率50%。降水量は、東・西日本で平年並み亦は少ない確率ともに40%。

10月、全国的に天気は数日の周期で変わる。東・西日本では、平年に比べ晴れの日が多い。北日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年同様晴れの日が多い。気温は、全国で平年並み亦は高い。降水量は、東・西日本で平年並み亦は少ない。

需要(市場)の動き

野菜の概況

6月の主要5大都市中央卸売市場の野菜の入荷は、札幌以外の市場は前年を上回った。平均単価はすべての市場で、前月に続き前年比安となったが、前月比高であった。

市場別の入荷量と価格は、札幌市場の入荷は前年比99%、平均単価はkg¥238前年比98%。東京市場は前年比104%の入荷で、平均価格はkg¥258前年比96%。名古屋市場は前年比103%の入荷で、平均単価はkg¥243前年比95%。大阪本場の入荷は前年比107%で、平均単価はkg¥241前年比91%。福岡市場の入荷は前年比104%、平均単価はkg¥174前年比91%となっている。

玉葱の販売量は、全市場で前年比増となり、札幌市場以外は前年比2桁増であった。平均単価はいずれの市場も前年比大幅安で、特に大阪本場は前年比58%の安値となった。市場別では、札幌市場の販売量は2,722トン前年比105%、平均単価はkg¥108前年比92%。東京市場は

10,441トンの販売量で前年比125%、平均単価はkg¥101前年比69%。名古屋市場の販売量は4,518トン前年比110%、平均単価はkg¥90前年比78%。大阪本場の販売量は3,535トン前年比119%、平均単価はkg¥91前年比58%。福岡市場の販売量は3,369トン前年比115%、平均単価はkg¥115前年比93%となっている。

日本農業新聞社の独自集計に依ると、全国主要7都市の代表荷受7社の、主要野菜14品目の6月の販売量は、89,158トン前年比107%(前月比91%)。平均単価はkg¥141前年比85%(前月比99%)で、弱含みの推移となっている。入荷が前年比増であった品目は、タマネギが前年比126%、ハクサイが117%、ナスが116%など11品目(前月は12品目)。前年比減となった品目は、レタス・ニンジンが前年比92%、キャベツが94%の3品目(前月は2品目)となっている。価格が前年比高であったのは、ダイコンの前年比108%の1品目(前月も1品目)のみ。前年比安であった品目はタマネギ・バレイショの前年比68%を始め、キャベツが79%、サトイモが81%、ネギ・キュウリの87%など13品目(前月は12品目)となっている。タマネギは、過去5ヶ年の平均値比で販売量は123%、平均価格は85%で値下がり率はトップとなっている。

東京都中央卸売市場の6月の野菜の入荷は、130,803トン前年比104%(前月比91%)であった。旬別では上旬が前年比109%、中旬が103%、下旬は99%となっている。主要品目で前年比増となった品目は、タマネギが前年比125%となったのを始め、バレイショが118%、ナスが117%、ピーマンが108%など9品目。前年比減となった品目は、ニンジンが前年比93%、トマトが96%、レタスが98%の3品目となっている。平均単価はkg¥258前年比96%(前月比108%)で、旬別では上旬¥247(前年比92%)、中旬¥270(前年比96%)、下旬¥258(前年比100%)となっている。前年比高となった品目は、ダイコンが前年比117%、ニンジンが109%、トマトが103%など4品目。前年比安は、タマネギが前年比69%、バレイショが71%、キャベツ・ピーマンが8

3%など10品目となっている。

東京都中央卸売市場の6月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	130,803	103.6	90.6	258	95.9	108.4
た ま ね ぎ	10,441	125.2	73.7	101	69.1	97.1
キ ャ ベ ツ	15,325	100.3	80.4	78	83.1	86.7
ば れ い し ょ	9,043	117.5	84.1	148	71.2	89.7
だ い こ ん	8,071	102.4	77.4	109	117.2	119.8
ト マ ト	8,788	96.3	85.6	306	103.1	109.3
き ゆ う り	7,569	103.4	81.5	257	96.3	110.3
に ん じ ん	6,941	92.7	76.1	142	108.9	100.7
レ タ ス	8,826	98.2	106.4	132	92.5	93.0
は く さ い	6,292	104.2	89.8	72	100.0	112.5
ね ぎ	3,730	100.2	99.7	414	92.9	107.8
か ぼ ち ゃ	2,955	89.0	116.3	232	115.3	122.1
な が い も	887	84.0	117.2	529	128.6	101.3
れ ん こ ん	166	99.2	65.4	1,347	99.7	147.2
に ん に く	304	87.2	80.2	1,003	108.8	94.9

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の6月の玉葱の入荷は、10,441トン前年比125%（前月比74%）で潤沢な出回りであった。佐賀物の入荷が前年比倍増したことや、北海物の切り上がりが遅れ、販売量が倍増したことに加え、香川、千葉などの入荷も前年を大きく上回った。主力の佐賀物の入荷は3,574トン前年比2

33%、占有率は34%で前年比14ポイントアップ。香川物は1,394トンの入荷で前年比159%、占有率は13%で前年比3ポイントアップ。兵庫物は1,153トンの入荷で前年比72%、占有率は11%で前年比8%ダウン。北海物の入荷は840トン前年比226%、占有率は8%で前年比4ポイントアップ。月間を通じて荷凭れ状態が続いた。平均単価はkg¥101前年比69%(前月比97%)、旬別では上旬¥104(前年比73%)、中旬¥99(前年比66%)、下旬¥99(前年比67%)で比較的安定した動きであった。産地別の月平均価格は、佐賀物がkg¥102で前年比85%、香川物はkg¥115前年比61%。兵庫物はkg¥123前年比63%。北海物はkg¥94前年比74%となっている。いずれの産地も指値が高く、価格維持に苦勞し、採算割れの販売が増加した。

7月に入り、佐賀を始め、関東産地の入荷も減少傾向となり、需給は回復に向かうと期待されたが、いずれの産地の品物も引き合い鈍く、表面相場と実勢価格との差が広がり、販売環境は厳しさを増した。主力産地の佐賀物の入荷は、短期貯蔵の除湿乾燥品に移行したが、依然指値が高い上に、Mサイズが多く売れ行きは鈍化の一途を辿っている。上旬の入荷は、佐賀・香川が前年比160%、総計では前年比110%、平均単価はkg¥102で前年比66%。中旬も佐賀・香川が倍増し、総計では前年比102%、平均単価はkg¥95で前年比54%。北海道産の極早生の生育は、順調との情報もあり。8月は、府県産に加え北海産の併売となり、販売環境は厳しい。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の6月の玉葱の入荷量は、4,518トン前年比110%(前月比71%)で順調であった。前月に続き愛知物主力の販売であった。愛知物の入荷は2,596トン前年比99%、占有率57%で前年比6ポイントダウン。兵庫物は1,017トンの入荷で前年比117%、占有率は23%で前年比3ポイントアップ。北海物は829トンの入荷で前年比137%、占有率は18%で前年比3ポイントアップ。平均単価はkg¥90前年比78%(前月比111%)で順

調に推移した。産地別では、愛知物はkg¥88で前年比79%。兵庫物はkg¥117で前年比67%。北海物はkg¥62で前年比113%。となっている。

7月に入り、愛知物が終了し、兵庫物主導の販売となった。2L、Lは概ね産地の希望値をクリアする価格水準で販売したが、M、Sサイズは引き合い弱く、現在も苦しい販売が続いている。愛知物が終了すれば、需給は改善し、市況は回復に向かうと期待したが、荷動き鈍化で、依然苦しい販売が続いている。昨今は、当日の入荷品は即日完売を目標に勉売しているが、新興産地の割安品の販売を抑制することになり、販売量の低下を招いている。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の6月の玉葱の販売量は、3,535トン前年比119%(前月比91%)であった。主力の兵庫(淡路)物の入荷は後ズレして前年比大幅減となったものの、長崎・佐賀物を始め、岡山、大阪など中小産地の入荷が前年比大幅増となったことで入荷は潤沢であった。主力の淡路物の入荷は、1,343トン前年比73%、占有率は38%で前年比3ポイントダウン。長崎物は992トンの入荷で前年比234倍、占有率は28%前年比28ポイントアップ。佐賀物は587トンの入荷で前年比197%、占有率は17%で7ポイントアップ。平均価格はkg¥91前年比58%(前月比95%)で、旬別では、上旬が¥98で前年比62%、中旬が¥86で前年比54%、下旬が¥89で前年比58%。月前半は弱保合、月後半は強保合で推移した。産地別では、兵庫物はkg¥114で前年比62%、長崎物はkg¥59で前年比46%。佐賀物はkg¥99で前年比73%となっている。

7月に入り、佐賀物の入荷が減少して、兵庫(淡路)物のウエイトが高くなったが、困い(ころがし)と言われる短期貯蔵品が主力であるが、球流れは意外に小粒で、M・Sが多い。Mは引き合い弱く、LとMの価格差が開き、LにMを抱き合わせるなど販売に苦労している。高値銘柄が少なく安値銘柄が多くなり、市況は日を追って軟化傾向である。入荷減となった佐賀物は、人気離散で買い手が

なく、受け皿探しに苦労している。7月上旬の入荷は、前年比76%、中旬は淡路物の急増で131%。平均単価は上旬がkg¥100前年比52%、中旬がkg¥81前年比40%となっている。現在も、市況は依然軟調傾向で回復の望みは薄く、販売環境は厳しい。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の6月の玉葱の販売量は、3,369トン前年比115%（前月比88%）で、順調であった。主力の佐賀物を始め、府県産の入荷は総じて前年比大幅増であった。北海物は前年比減であった。産地別では、主力の佐賀物の入荷は1,893トン前年比148%、占有率は56%で前年比12ポイントアップ。北海物は622トンの入荷で前年比92%。占有率は18%で前年比5ポイントダウン。長崎物は327トンの入荷で前年比250%、占有率は10%で6ポイントアップ。平均単価はkg¥115前年比93%（前月比107%）で順調に推移した。産地別では、佐賀物はkg¥115で前年比97%。北海物はkg¥117で前年比133%。長崎物はkg¥85で前年比66%であった。

7月に入り、主力の佐賀物の入荷が減少傾向となり、極力高値販売に努めたがMが多く苦労した。地場の福岡物は、地産地消を掲げ給食向けに販売しているが、無難に捌けている。学校が夏休みになると受け皿が小さくなるので、再考が必要である。此処に来て、佐賀物の入荷が細り、府県物が品薄になる場合には、転送屋を利用し、兵庫物を販売しているが、割安で入手出来ている。7月上旬の入荷は前年比91%、平均単価はkg¥121前年比82%。中旬の入荷は前年比100%、平均単価はkg¥104前年比71%となっている。

7月24日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷160トン、弱保合

北 海 20kgNT2L¥1,500～1,400、 L大¥2,000～1,350、 L¥1,600～1,300。

佐 賀 10kgDBL¥1,000～ M¥900 ～ 800、

佐 賀 20kgDB2L¥2,100～ L¥1,800～ M¥1,650～
 栃 木 20kgNT2L¥1,250～1,100、 L¥1,250～1,000、 M¥1,000～
 富 山 20kgDB2L¥2,100～ L¥1,800～ M¥1,650～
 和歌山 20kgDB2L¥1,850～ L¥1,800～ M¥1,600～
 北 海 10kgDB(サラダ)2L¥1,500～1,300、 L大¥1,500～1,450、 L¥1,500～

【太田市場】 入荷327トン、保合

佐 賀 20kgDB2L¥1,600～1,400、 L¥1,600～1,400、 M¥1,300～1,200。
 兵 庫 20kgDB2L¥1,800～1,700、 L¥1,800～1,600、 M¥1,300～1,200。
 香 川 10kgDB2L¥600 ～ 500、 L¥600 ～ 500、 M¥400 ～ 300。
 和歌山 20kgDB2L¥1,300～1,200、 L¥1,300～1,200、 M¥1,000～ 800。

【名古屋北部】 入荷114 トン、弱保合

兵 庫 20kgDB2L¥2,200～2,100、 L¥1,900～1,800、 M¥1,400～1,300。

【大阪本場】 入荷105 トン、弱い

佐 賀 20kgDB2L¥ ～ L¥1,300～1,200、 M¥1,000～ 900。
 兵 庫 10kgDB2L¥1,000～ 800、 L¥1,000～ 800、 M¥800 ～ 600。
 兵 庫 20kgDB2L¥1,900～1,800、 L¥2,000～1,700、 M¥1,300～1,100。

【福岡市場】 入荷75 トン、弱い

佐 賀 10kgDB2L¥1,200～1,000、 L¥1,200～1,000、 M¥800 ～ 600。
 福 岡 10kgDB2L¥1,100～1,000、 L¥1,100～1,000、 M¥700 ～ 500。

供給(産地)の動き

昨年の6～7月市況は、主力産地の佐賀が深刻なべと病被害に見舞われて、極端な収量減となり、寡ってない品薄高となった。昨年の経緯を受けて、今年は、北海産地を始め、府県のいずれの産地も、6～7月に端境期が発生する可能性ありのムードが台頭し、出荷が後ズレしていることで在庫増となっている。加えて、前年好収益を得たニュージーランドの輸入物が、大幅増となったものの、売

れ行き不振で港頭倉庫を始め各地で滞貨し、現在も全国的にかなりの在庫があり、投げ売り状態になっている。府県産地では、大産地の淡路、佐賀の出荷が後ズレしているのを始め、夏高を期待した中小産地に殊のほか在庫が多い。他方、北海産地では、極早生の作付増から、既に出荷が始まっており、8月の出廻り量は過去最多となる予想である。昨今、全国的な猛暑が続き、玉葱の需要は減退傾向にある。例年、8月の需要は7月に比べ増加傾向となるものの、夏休みで学校給食を始め、業務給食などの中断により大きな需要の伸びは期待出来ない。府県産地では、冷蔵入庫などで需給調整が図られるものの、当面厳しい需給環境が続くと予想される。

府県産地

中晩生の主力産地である兵庫(淡路島)では、出荷の後ズレで産地在庫はかなり多い。近年、小屋吊りは減少傾向にあるが、産地を一巡すると、前年に比べると多いと実感する。津名は総じて、球太りは良いが、裂球が目につく。三原は、地区別、圃場別の格差が見受けられ、球太りは総じて細く意外に小粒であるが、球締りが良く品質は良好である。近年の温暖化で、高温多湿に見舞われる年が多く、生産者は病虫害の防除費用が嵩み、肥培管理費が多額になるとの声が聞こえる。生産費の上昇も、相場待ちの出荷になった一因と考えられる。7月の軟調市況を受けて、生産者からの冷蔵入庫の申し込みが増加し、冷蔵業者のなかには、既に満庫に近い庫もあると言う。在庫増と市況の低迷で、冷蔵入庫は近年の最多量になる予想。現在の産地相場は、20kg2L～M込み裸値¥1,200の水準にあり、近年の最安値となっている。

佐賀では6月の出荷は順調で、JA・商系個々にはかなりの差はあるものの、総じては前年比150%前後になっている。7月は軟調な市況を反映して、出荷が後ズレして産地在庫(小屋吊り、囲い)は意外に多い。小屋吊りもハウス乾燥の囲いは共に小粒で、M・Sのウエイトが高い。前年比倍増となったJAの除湿乾燥品は、7月末には出荷終了とのこと。指値販売で有利販売が出来たと聞く

が、歩留まりは今ひとつだった模様。商系の出荷はJAより遅れ、終了は盆前になると見ている。JAでは、除湿乾燥品の高値販売をPRし、即売物の集荷拡大に努めている。現在の産地相場は、20kg裸値2L¥1,000、L¥1,400、M¥1,100、S¥500で市場出荷では採算割れになることから、商系ではM、Sを秋冬期の加工原料向けに冷蔵庫に入庫している処が多い。

北海道産地

北海道では、既に極早生は収穫期に、中晩生は肥大期に入っている。作付は13,000haを上回っており、前年比で作付増は極早生で180haと報告されているが、昨年の台風被害による流失、冠水の面積を勘案すると、平年作を確保出来れば、前年並みか前年を上回る生産量になると予測される。現在の生育状況は、概ね平年並みで、極早生はやや前進化で豊作型と見ている。6月に断続的な降雨に見舞われたことや、7月に入って最高気温が35℃もの高温が続いたことで、水やけや葉先枯が見受けられ、地区別、圃場別に生育格差があるものの、8月に異常気象に遭遇しなければ、総じては平年作は確保されそうである。各地区とも極早生は7月中旬から根切りが始まっており、8月上旬から本格的な出荷が始まる。

外国産地

5月の輸入は、速報値で、33,749トン前年比91%で、予想を下回り前年比減となっている。主な国別の輸入量では、中国が28,182トン前年比84%。オーストラリアが1,740トン前年146%。ニュージーランドが3,811トン前年比72%となっている。

中国、6月の主産地は江蘇省、山東省である。韓国からの引き合いが強まったことで、現地価格は値上がりしたが、現在は落ち着いている。現在の日本向け価格は、20kg・C&F・剥き玉\$6.80。皮付き\$5.20の水準である。

8月の市況見通し

7月の市場では、産地の指値が高値であったことで、いずれの市場も表面相場と実勢価格とではかなりの差が生じた。産地主導の相場展開となったことで、荷受けサイドでは価格維持に精力を費やし、多くの荷受けで採算割れ販売と在庫が増加した。現在、府県産地の在庫は中晩性で貯蔵性があり、冷蔵入庫で多少の出荷調整が可能であるが、北海産地の極早生は貯蔵性が劣るためストックは要注意である。需給調整が機能しなければ、8月前半は軟調場面が続くと予想される。府県産と北海産のバトンタッチをスムーズにすることが市況に大きく影響する。月後半からは北海産の作柄が決め手となる。8月前半の中心相場は20kg、府県物L ¥1,800～1,500。北海物L大 ¥1600～1400を予想。(了)